

第5期夢育で・たちかわ子ども21プラン推進会議 要旨

会議名	夢育で・たちかわ子ども21プラン推進会議(第10回)
日時	令和6年11月13日(水)18時30分～20時30分
出席	金子恵、大橋暉弘、小畑くるみ、神田恭司、千頭和正巳、永田ゆかり、樋口睦子、秋山俊、平野静香、米原立将、景山千鶴子、小松佳世子、佐藤米子、水城優子、山中ゆう子、坂下香澄、鉤賢太郎、飯野心咲、松村咲(委員名簿記載順・敬称略) [事務局]矢ノロ子ども家庭部長、平川子育て推進課長、井田子育て推進係長、高野子育て推進係 [株式会社地域計画連合]相羽、青野
欠席	中嶋弥生、土方崇、北島宏晃、伊東祐也、安部希美、大口泰朗、末平乙綺、佐藤蓮太郎、(委員名簿記載順・敬称略)
配布資料	(1)第2章 本市の子どもと子育て家庭の現状【資料1-1】 (2)第5次 体系案【資料1-2】
会議場所	立川市役所 302 会議室

1. 第5次夢育で・たちかわ子ども21プラン策定について

1-1. 本市の子どもと子育て家庭の現状について(現プラン第2章)

(1)事務局より、9月25日の推進会議でいただいた意見と、各課に確認した内容をもとに、前回から修正した資料1-1について、主な変更点を説明した。

(2)委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・生活困難度のページで、「東京都で平成28年度に策定された「東京都子供の生活実態調査」にて…」という記載について、「調査」なので「策定」は適切でない。
- ・母親の就労状況のグラフについて、説明文には「母親の就労状況は「フルタイムで就労している」が最も高い」とあるが、小学校児童家庭の場合は「パートタイムで就労している」が最も多いため、書き方を変更したほうが良い。
- ・自己肯定感のグラフについて、説明文が少し短い、中学2年生では「そう思わない」が多いなど特徴があるため、文章を追加したほうが良い。
- ・子どもの権利条約の認知度は、内容まで知っていたという回答がごく少ない。条約の名前だけを知っていても意味がない感じがするので、その辺りの文章を追加したほうが良い。
- ・自己肯定感グラフについて、肯定的に捉えた「そう思う・まあそう思う」の子どもが何%といったところも、ひとつの目安になる。そういう部分が、もう少し説明文の中で分かりやすくなっていると良い。
- ・グラフのサンプル数について、全角半角が混合しているため、統一したほうが良い。
- ・Q 少人数指導は都の基準の中で英語、数学と中学校全校がやっているため、1校あたり200時間ぐらいは出てしまう。表内の202が何を示しているのかよく分からない。
- ・A 202は、市が負担している時間数を表している。
- ・少人数指導員とは、どのような人を指しているのかが分かりにくい、補足説明等を追加する必要がある。
- ・施策5(4)ワーク・ライフ・バランスの推進について、第4次プランの冊子では、第3次プランの取組状況として詳細な実施内容や結果が示されている。今回は説明が短いため、実際の実施内容や成果が分かりにくい。

- ・施策2(2) 青少年の育成・支援について、青少年が健全であると感じている市民の割合が成果指標となっている。健全の意味合いがどうなのか。子どもが反抗したり少しよれたりするのもひとつの成長過程であるとしたら、言葉の意味合いについて誤解のないように説明をしたほうが良い。
- ・施策2(2) 青少年の育成・支援の「③将来に備え、社会性や自立心を育みます」について、取組指標が職場体験や子ども会の加入率となっている。市民性や社会性を育むために、立川市は市民科という取組があるので、そういう指標を載せられると良いのでは。
- ・施策4(1) 母と子どもの健康支援のところに、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行ったという文言があり、2点気になった。1点目は、「子育て期」とは一体どんな期間を指しているのか。2点目は、立川市の文言として、切れ目のない支援を行ったと言い切ってよいのか。立川市在住の母親として、もっと切れ目のない支援があったらいいなと、いつも思っていたり、話をしたり、それに向けて活動したりしている。この文言は、市との考え方と私たちの環境に齟齬がでてきてしまうと思う。本当に立川市として切れ目のない支援を行ったのか、少し考えてほしい。そうでないと思うのであれば、切れ目のない支援を行いましたという文言でない書き方にしていきたい。

1-2. 第5次プランに向けた取組調査の状況について

- ・事務局より、各課へ調査した第5次プランで記載する取組について、資料1-2に基づき説明した。また、推進会議で上がった意見に対し、各課調査の中で回答があったものについて紹介した。

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・Q 新取組37の若年者の自立支援で提案される内容を教えてほしい。
- ・A これから指標を詰めていくため、具体的な内容は各課に調査していくことになる。今の時点では、この事業とお示しできるものはない。
- ・新取組37は若年者でなく、若者の自立支援とするのはどうだろうか。新取組119の若年者の就業支援も、若者と変更したほうが良い。
- ・新取組6の子どもの人権SOSミニレターの配布について、ここだけ物の配布となっている。配布が目的ではなく、子どもの人権が守られる、SOSを自分で出せることが目的なため、文章を検討したほうが良い。
- ・新取組12のヤングケアラー相談支援の担当が地域福祉課だけとなっている。横断的に子ども家庭支援センター等も担っていく必要がある。
- ・新取組125の養育費確保支援の公正証書作成の援助は都でやっていること。立川市独自で養育費確保のために何か支援を考えている内容であれば、文言の変更も理解できる。地域行政として問題意識を持ってやってほしい。
- ・東京都から派遣されるスクールカウンセラー以外に、市独自でスクールカウンセラーを雇ったり、不登校支援でソーシャルワーカーを拡充したりすることは、全自治体がやるべきことだと思っている。担当課に意見として伝えてほしい。
- ・新取組101の子育てしやすい職場環境づくりの促進の担当課に、子育てに関わっている課がないのが気になる。子育てしやすい環境について相談を受けている課は、状況をよく把握している。そういう課が担当課に入れば、実際に相談を受ける内容と誤差が少なくなると思う。
- ・新取組36の地域における青少年健全育成・犯罪の防止とあるが、もともとの取組であった青少年対策に逆戻りするような感じがする。青少年健全育成に統合するのではなく、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する啓発の取組に統合する方が、まだ良いのではないかな。もう少し検討してほしい。

- ・新取組35の職場体験の機会の拡充部分について、産業振興課や地域の事業所などの力を借りたいと思うので、産業振興課が入る余地があるか検討してほしい。
- ・新規提案として、子どもの権利条例の制定（仮称）の取組が、20年目にして入ったことは、推進会議の中で議論しながら進めてきた成果だと思う。

2. 第5次プランで掲載するコラムの検討について

(1) 事務局より、前回のグループワーク用資料に基づき、グループワークの後にコラムの内容やタイトルを決める旨を説明。

(2) 4班に分かれ、グループワーク。委員の主な意見交換結果は以下のとおり。

【グループ1】

・子どもの権利について、グループ1の中で話題になった。いじめや虐待という内容について、大口委員から執筆したいと言われている。また、SNSを使いたいじめの話題から、歩きスマホや食事中にスマホをみるなど、大人のモラルも低いからなかなかモラルが浸透しないという話題もあった。2つ目はスクールカウンセラーが週に1回ということから、相談したいときにできないことは問題という話になり、学校の相談体制について、松村委員が執筆する。3つ目は子どもの居場所の話から、プレーパークについて坂下委員が執筆する。4つ目は、もちろん子どもの権利についてもコラムとして必要ということで、山中会長が執筆する。

【グループ2】

・前回、英語の授業を例に挙げて、この授業のやり方はどうなのかという話があり、その内容であればコラムを書けそうという話があったため、学校の授業について末平委員が執筆する。2つ目は子どもの発達について、保護者の立場として書きたいという話があったので安部委員にお願いする。3つ目はヤングケアラーの気づきについて、ヤングケアラーと接する機会があり、その時に感じたことなどについて平野委員が執筆する。

【グループ3】

・コラムの執筆者が3名決定した。1つ目は、施策目標4の産前・産後の支援について、水城委員が執筆する。2つ目は、施策目標6の切れ目のない支援。切れ目のない支援を提供することとしながら、支援級が小学校にしかなく、中学校や保育園にも必要ということについて、小畑委員が執筆する。3つ目は、他のコラムと重ならない、足りない視点等があればその分野について、秋山委員が執筆する。

【グループ4】

・居場所というのが前回からグループのテーマになっていたため、実際の中学生の立場から見た時の居場所というのがどんなものなのか、飯野委員が執筆する。2つ目は、多世代で集まれる居場所、地域で誰でも集まれる居場所について、樋口委員が執筆する。3つ目が、子ども会への加入率の低下や地域全体で子どもを支える力が弱くなっているのではないかという話から、地域活動の大切さ、子ども会・自治会に関する内容について景山委員が執筆する。最後に若者の自立支援のところ。地域の社会参加活動の中で、少し働くということが若者の第一歩になると感じていることから、若者のはじめて働くという内容で大橋委員が執筆する。

4. その他

- ・立川市とパートナーシップ協定を結んでいる子育て・いれかわりたちかわり実行委員会より、いれたちフェス開催の告知。このフェスでは、メンバーのやってみたいことを実際に形にし、それぞれの特技を生かした内容でブースを設けている。ぜひご参加いただきたい。
- ・柏小學校で移動式プレーパークを開催する。プレーカーの上に乗ったり、滑り台を作ったりして遊ぶ。ぜひいらしていただきたい。
- ・チャイルドラインたちかわより、20周年記念の第2弾の講演会開催の告知。立川の未来を作る子ども達に、私がいまできること、地域で何ができるだろう、ということをみんなで話し合いながら進めるワークショップ型の講演会。ぜひいらしていただきたい。
- ・チャイルドラインたちかわから、全国のチャイルドラインが連携して、フリーダイヤルで24時間つながるキャンペーンについて案内。
- ・コラムは12月10日を締め切りとする。
- ・次回、推進会議 12月19日を予定。

以上